

日ごとに暖かさを増して桜の花が咲き誇る季節はもうすぐです。今日は大阪市立淀中学校第七七回目の卒業式。新校舎完成を祝う竣工式後に行われる初めての卒業式です。淀中学校にとって、まさに「ハシの日」です。

ご来賓の皆様。胸を張り未来に向けて巣立ってゆく卒業生たちの門出。ご列席の皆様と共に祝っていただけること、誠にありがとうございます。篤く感謝とお礼を申しあげます。今日、一六六名を加え、淀中学校の卒業生は二五六四〇名となりました。歴史と伝統を感じます。皆様の大きな支えがあつてのことです。地域の皆様に支えていただける淀中学校であることが誇りです。

卒業生の皆さん。皆さんは、私にとって、淀中学校での初めての卒業生でもあります。先ほどの卒業証書授与。おめでとうという気持ちを込めて、みなさん一人一人の顔をみて卒業証書を手渡しました。知らず知らず、この一年間のさまざまな思いがこみあげてくることになりました。

皆さんが淀中学校に入学してきた頃の姿。それは私にとって想像することしかできませんが、今よりも心身ともに頼りなく幼い姿であったことだろうと思います。そこから三年間。たく

さんの経験を皆さんは積み重ねてきました。

人を励ますこともあったでしょう。人に励まされることもあったはずです。充実感や達成感もあれば、挫折や苦しみ、悩みもあったことだと思います。喜びとともに悲しみもあったのではないのでしょうか。そのすべてが、きっと、みなさんの財産です。それらを糧に、みなさんはこの三年間で大きく成長しました。頼りなく幼い姿を脱ぎ捨て、立派な青年として巣立っています。皆さんが眩しいです。

これまでの成長に大きな拍手を送るとともに、みなさんのこれから成長にエールを送ります。たくさんの希望がみなさんを待ち受け、たくさんの幸福をみなさんが手にしていけますように。

さて、卒業にあたり皆さんに、最後に伝えたいことは何だろうとあらためて考えてみました。昔の偉人の格言なのか、それとも有名な詩の一節なのか。考えた末に、これまで節目節目でその時々の子童・生徒たちに伝えてきた「願い」を重ねて伝えることにしました。新しくはありませんが、心からの「願い」なので、最後にもう一度きいてください。

一つめの願い。それは、皆さんに「頑張る人、努力する人」で

いてほしいという願いです。

頑張る、努力するというのは、成長しつづけるために、とても大切なことだと思います。頑張る、努力するためには目標や考える力、辛いことから逃げない心が必要です。いつも頑張り、努力し続けることは簡単なことではありません。

だけど、成長しつづけるために大切なことに間違いはありませんので、時には休息をとりながらも、皆さんには「頑張る人、努力する人」でいつづけてほしいです。

二つめの願い。それは皆さんに「優しい人、思いやれる人」でいてほしいという願いです。

成長しつづけるためには、いつも安心してすごせる場が必要だと思います。皆さんがたくさんの人を優しく思いやることであれば、たくさんの人が皆さんを優しく思いやってくれるはずです。そんな優しさと思いやりに満ちた場は、きっと、いつも安心してすごせる場です。

優しさ、思いやりとは、人を理解して大切にすることです。それができる人は「本物の強さ」を手に入れられる人でもあると思います。

三つめの願い。これは初めて皆さんにお話することです。元は、アメリカ合衆国の伝説的な大統領ジョン・F・ケネディが

大統領就任演説で語った言葉を自分なりに解釈したものです。

ケネディはこう国民に語りかけました。「国があなたたち一人ひとりに対して何をしてくれるか」と問うのではなく、「あなたたち一人ひとりが国に対して何ができるか」と問おう。社会で生きる人としての基本的な心の在り方を問いかける言葉です。

国という言葉は、例えば、会社であったり学校であったりチームであったり家族であったり、「さまざまあなたが所属する集団」と言い換えて理解することができます。所属する集団から与えられるものに賛否を述べるばかりではなく、所属する集団の現状をよりよくするために、自分には何ができるのかを考えよう。そのような心の在り方を示していると思います。皆さんには、ぜひ、そのような心の在り方でこれからの人生を切り拓いて行ってほしいです。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業おめでとうございます。お子様の胸を張り未来に向けて巣立ってゆく姿をご覧になり、大きな喜びと感動で胸をいっぱいにされているのではないのでしょうか。心よりお祝い申しあげます。あわせて、これまで三年間の淀中学校に対する温かいご理解とご協力に、あらためて篤くお礼を申しあげます。

中学校を卒業したお子様は、思春期真っ只中から、大人に向けて確実に一歩近づいたことだと思います。保護者の皆様に支えられ励まされるばかりであったのが、保護者の皆様を支え励ます場面が増えていくに違いありません。それでもきっと、まだまだ保護者の皆様の温かな愛情と眼差しを必要としていることだと思います。あとしばらくは、変わらぬ愛情とつかず離れずほどよい距離感で、さらなるお子様の成長を見守ってください。

それでは、皆様の幸福を祈念し、卒業式の式辞とさせていただきます。

令和七年三月十四日

大阪市立淀中学校 校長 吉田健太